

# 「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書（小学校版）

※ 網掛けのない部分が計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

宇都宮市立新田小学校

## 1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

### (1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

#### 仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき，共に伸びようとする子ども

#### 強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

#### たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

### 心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

子どもたちが心身ともに健やかに育つことをめざし，学校・保護者・地域が協同して，生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため，人間尊重の精神を基盤とし，家庭・地域の教育力の活用を図りながら，高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し，子どもたちの人間力を豊かに育成する。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） 地域学校園内で共通する方針は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### (1) 学習指導の充実

確かな学力を身に付け，実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

### (2) 教師力の向上

教職員として使命感や誇りをもち，自己研鑽に励み，協働しながら教師集団の総合的な指導力を高め教師力の向上に努める。

### (3) 特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

### (4) 心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け，気力や体力をはぐくむ教育活動の充実を図る。

### (5) 豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに，思いやりの心をもち，自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

### (6) 人間力の育成

社会的自立の基礎を培い，社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

※人間力：社会を構成し運営するとともに，自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

### (7) 信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点をもち，学校，家庭，地域との連携，協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

### (8) 危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに，落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

## 4 今年度の重点目標（短期的視点） 地域学校園内で共通する方針は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### (1) 学校運営

「明るく活気のある雰囲気の中で，子どもが生き生きと学習・活動する学校」

－ 明るく，楽しい，活気に満ちた学校 －

### (2) 学習指導

「互いに認め合い、学び合う集団の育成」

－ 学ぶ意欲を育て、基礎・基本を確実に身に付ける学習を基盤にして －

### (3) 道徳教育（児童生徒指導）

「互いのよさを認め，豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」

－ あいさつ運動，読書活動の推進を基盤として －

### (4) 健康（保健安全・食育）・体力

「自らの健康・体力に関心をもち，進んで体力の向上に励む児童の育成」

－ 休み時間の外遊び，プチトレーニングの取組を通して －

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	<p>A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定回答90%以上</p>	<p>① いじめの早期発見、早期解決のため、4月、9月、1月に学校生活アンケートを継続して実施する。</p> <p>② 相手を思いやる気持ちを育てる取り組みの推進のため、5月のいじめゼロ強調月間に、児童が標語を作成・掲示したり、11月の人権週間やいじめゼロ強調月間で全校集会を行ったりする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定回答率、93.2%は、前年度より1.9%上回り、数値指標90%以上を達成した。 いじめのアンケート調査では、いじめの件数はゼロであった。あいさつ運動は、計画委員会を中心に、クラス単位で行ったが、朝登校班で登校し、無理なくあいさつ運動に取り組むことができた。いじめゼロ強調月間では、集会を開き、委員会が中心となって呼びかけをし、啓発する活動を行った。また、昨年度より、月1回若松原中学校から生徒会が来校して、朝のあいさつ運動に生徒が参加し、あいさつの交流を図った。</p> <p>【次年度の方針】 ① いじめの早期発見、早期解決のため、5月、10月、1月に学校生活アンケートを継続して実施する。 ② 年間を通して取り組むあいさつ運動では、クラスの担当者を決め、全児童が積極的に取り組めるようにする。いじめゼロ強調月間には、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。あいさつ運動にあわせて、登校班でのあいさつ励行を指導する</p>
	<p>A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】① 全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定回答90%以上</p> <p>【数値指標】② 全体アンケートの「教職員は協力し、児童のよいところを認め、考えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>① 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。</p> <p>② 朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを活用した繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら全校体制で取り組む。</p>		<p>【達成状況】 ① 児童の肯定回答は96%で数値指標は達成されている。6月と12月に実施した教育相談では、日課を変更し時間をしっかり取って余裕をもって、児童一人一人の話を担任が聞くことができた。また、事前に実施したQ-Uアンケートの結果などを利用しながら実施することができた。 ② 保護者の肯定回答率は87.3%と数値目標を達成することができた。 学校で共通理解し、曜日ごとに学習内容を決めたことや掲示物を用いて学習内容を確認したことによって、児童が見通しを持ち、集中して学習に取り組むことができた。</p>

		<p>【次年度の方針】</p> <p>① 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。</p> <p>② 共通理解のもとに、児童が自主的に学習に取り組めるようにする。また、間違い直しをし、定着を図る。</p>
<p>A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>	<p>① 教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童に決まりやマナー、秩序を徹底指導していく。</p> <p>② 児童が自分の生活の様子をふり返る場や、決まりを守って生活している児童が賞賛される機会を設定する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答率は82.5%で、数値指標を達成できた。昨年度の78.2%からは4.3%増えた。なお、保護者の肯定回答率は86.7%と、児童の肯定回答率を上回り、地域住民の肯定回答率も93.7%と高かった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童に決まりやマナー、秩序を徹底指導していく。</p> <p>② 児童が自分の生活の様子をふり返る場や、決まりを守って生活している児童が賞賛される機会を設定する。</p>
<p>A4 教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力の向上を図っている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定回答90%以上</p>	<p>① きめ細かな指導の充実を図るため、指導形態の工夫や少人数による指導等を、多くの学年・学級で実施する。</p> <p>② 学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は92.6%で数値目標を達成した。 教職員は、学級の枠を越え協力しながら授業の進め方等の研究をしたり、児童の伸びやつまずきを話し合ったりするなどして、指導の工夫に努めてきた。また、1学級複数教師による授業を3・4年生にも導入して一人一人にきめ細かな指導の実施に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① きめ細かな指導の充実を図るため、1学級複数教師による授業・習熟度別学習等、指導形態の工夫や少人数による指導を多くの学年・学級で実施する。</p> <p>② 学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。</p>
<p>A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定回答90%以上</p>	<p>協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答94.1%、保護者92.2%、地域住民は100%といずれも去年を上回ったとともに数値指標を達成した。 上級生、下級生がそれぞれに頼り頼られる立場を体験することで高学年としての自覚が芽生えたり年長の者を尊ぼうとする意識が生まれたりした。また、互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。</p> <p>【次年度の方針】 協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施</p>

学校運営の状況	<p>A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>宇都宮オープンスクール等の学校公開や授業公開については、本年度と同様に年間4回実施する。また、学校の取り組みについてより理解を深めてもらうため、月に1度は保護者に関する行事等を実施する。</p>	<p>する。</p> <p>【達成状況】 保護者の肯定回答が95.1%と、高評価が得られた。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮オープンスクール等学校公開や授業公開については、本年度と同様に年間4回実施する。また、より理解を深めてもらうため、月に1度は保護者に関わる行事等を実施する。</p>
	<p>A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】① 全体アンケートの「本校の保護者は、学校の教育活動などに協力的である」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p> <p>【数値指標】② 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定回答80%以上</p>	<p>① よりよい生活習慣の定着を目指し、特に長期休業中も家庭の協力を得られるよう「すくすくカレンダー」を活用した強化週間を設け、集中的に活用する。</p> <p>② 教育活動を充実させるため、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した授業を各学期で計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>① 保護者の肯定回答は88.9%と前年より6.7%上回った。児童の生活習慣は、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」などを通して身に付いてきている様子がうかがえる。</p> <p>② 肯定回答が教職員は96.4%、保護者は88.9%、地域住民は100%と、いずれも80%以上の評価が得られた。朝のボランティアや水泳ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げられた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 授業参観などの学校行事やPTA活動などの教育活動に積極的に参加できるよう情報を発信する。</p> <p>② 教育活動を充実させるため、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した授業を計画的に実施する。</p>
	<p>A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい潤いのある環境である」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>① 清掃の仕方や用具の使い方・後始末の仕方など、清掃指導について教職員の共通理解を深め、指導の徹底を図る。</p> <p>② 落ち着いた学校生活を過ごすとともに、学習に生きる環境を整備するため、校内環境の在り方について、児童の視点から再度検討し、学校環境の整備・充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は89.8%で昨年度を14.2%上回った。なお教職員は89.2%、地域住民は93.2%、児童は88.1%とすべて肯定的回答80%以上であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 清掃時に教職員が協働の姿勢を示したり、清掃の仕方を各クラスで学級活動の時間に話し合ったりして隅々まできれいに清掃できるようにして、清潔で整理整頓された教室環境づくりに努める。</p> <p>② 靴箱の砂を各クラスで休み時間に清掃するようにするなど、気付いた所を主体的にきれいにしようとする態度を育てる。</p>
	<p>B1 教職員は学校の研究課題</p>	<p>授業で様々な学び合いの場を意</p>	<p>【達成状況】</p>

	<p>(学び合い)に関する研究に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケートの「授業で、みんなと一緒にじっくりと考えながら勉強している。」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>	<p>図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努める。また、保護者や地域住民へ、授業参観や学年だより等で子どもの学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。</p>	<p>児童の肯定的回答は80%を上回ったが、昨年度と比べてみると、87.9%と昨年度から0.1%下回った。</p> <p>【次年度の方針】 今後とも更に授業に積極的に取り組めるよう、学び合う学習環境を整えていくとともに、今年度同様、保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で子どもの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。</p>
教育活動の状況	<p>A9 児童は進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】① 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>	<p>児童会の計画委員会を主体とし、たすきを活用したあいさつ運動を継続的に行うとともに、集中的に指導を行う期間を定め、校内放送での意識付けを図る。また、若松原学校園としてさらに小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は90.6%で、数値指標を達成するとともに、昨年度を4.2%上回った。</p> <p>【次年度の方針】 全学級ローテーションのあいさつ運動を継続的に行うとともに、集中的に指導を行う期間を定め、校内放送での意識付けを図る。また、若松原地域学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実を図る。また、自治会等地域と連携して、地域でのあいさつ励行についても努める。</p>
	<p>A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>全体アンケートの「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒地域住民の肯定回答80%以上</p>	<p>言葉遣いについては、日常的にその都度指導を繰り返す。家庭にも学年・学級懇談や学年だよりなどを通して協力を呼びかける。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定回答は81.2%で、数値指標を1.2%上回った。</p> <p>【次年度の方針】 言葉遣いについて、日常的にその都度指導を繰り返す。家庭にも学年・学級懇談や学年だよりなどを通して、正しい言葉遣いができるよう、協力を呼びかける。</p>
	<p>A11 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>	<p>「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知の徹底を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「家トレ」の奨励を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は85%で、数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知の徹底を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「家トレ」の奨励を継続して行う。また、ジャンピングボードなど、児童が進んで運動に利用できる器具を整備するなど運動する環境を整備し、ミニム達成のための運動プログラムの整備に努める。</p>

教育活動の状況	<p>A12 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>全体アンケートの「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>「お弁当の日」や「校内給食週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して実施していく。また、給食室と連携して、野菜の切り方を工夫するなど、楽しい給食作りを推進する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定回答は68.2%で、昨年度を15.2%下回り、数値指標80%以上を達成することはできなかった。児童の肯定回答は80.9%で昨年度を1.5%上回り、教職員の肯定回答も92.5%で昨年度を13.4%上回っていることから、保護者の食に関する意識が高まり、栄養のバランスの視点が昨年度より厳しくなったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 「お弁当の日」や「校内給食週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施していく。また、子どもに好評な給食のメニューを紹介したりリクエストメニューの充実をしたりしていく。さらに、給食室と連携して、野菜の切り方を工夫するなど、楽しい給食作りを推進する。</p>
	<p>A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>	<p>今後も、一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を展開する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は87.5%で、数値指標肯定回答80%以上を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を継続していく。</p>
	<p>A14 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している。」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>「基本的な学習のしつけ」に関しては、掲示物を作成して児童への意識付けを図る。</p> <p>個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。</p> <p>また、各学期始め・長期休業終了時に、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、集中して指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定回答は79.8%で、数値指標を0.2%下回ったが、昨年度の肯定回答を7.1%上回った。</p> <p>【次年度の方針】 「基本的な学習のしつけ」に関して、掲示物を活用して児童への意識付けを図る。</p> <p>個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。</p> <p>また、各学期始め・長期休業終了時に、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、集中して指導を行う。</p>
	<p>B2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、学校でだれとでも協力して生活している」</p>	<p>継続して、生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動をさらに充実させる。また、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の工夫に努</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は87.1%で、数値指標を2.9%下回ったが、昨年度の肯定回答を1.3%上回った。</p> <p>【次年度の方針】 生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動を継続させる。また、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動</p>

	⇒児童の肯定回答90%以上	める。	しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の充実に努める。
本校の特色・課題等	<p>B3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケートの「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定回答80%以上</p>	<p>引き続き、交通指導員さんや下校ボランティアの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続するとともに、校内の掲示物や授業参観後の懇談会やたより等であいさつに取り組む様子を保護者に知らせ、理解を得られるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定回答は78.2%であり、数値指標の80%にはやや及ばなかった。しかし、一昨年度は69.4%、昨年度は73.6%と上向き傾向にある。 今年度は、昇降口におけるあいさつ運動を計画委員会だけでなく、全児童が行えるよう、クラス単位に年2回の割合で実施した。また、昨年度に引き続き、若松原中学校の生徒が来校し、あいさつの輪を広げる活動を行った。 【次年度の方針】 引き続き、交通指導員さんや下校ボランティアの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。また、校内の掲示物や懇談会やたより等を活用し、あいさつ運動に取り組む様子を保護者への周知し、協力を依頼する。</p>
	<p>B4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、読書や調べ学習などで月20冊以上本を読んでいる」 ⇒児童の割合90%以上</p>	<p>朝に図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を確保し、読書の推進に努める。また、家庭での読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、多様なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は72.1%で、昨年度の73.9%と横ばい傾向にあり、数値指標の90%には達しなかった。しかし、1月末までの貸出冊数を比較してみると、昨年度は21,800冊、今年度は33,500冊と、53%増えている。また、11月の調査では、全体平均が28.5冊で、月の読書量は20冊を超えている。 これは、「朝の図書館開放」や「朝の読書の時間」の確保により、読書する習慣が定着してきたことが理由として考えられる。 また、読み聞かせボランティアの方々や親しむ機会が多かったことや司書によるブックトークの実施も、児童の読書意欲の向上に効果的であったと考えられる。 【次年度の方針】 朝の図書館を開館を継続し、利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を十分に確保し、読書の推進に努める。また、家庭での読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。若松原地域学校園として、夏季休業中、読書感想文に適した図書を紹介や読書感想文の書き方の支援などサマースクールを実施する。</p>
	<p>B5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。</p> <p>【数値指標】① 学校独自アンケートの「縦割り班活動で、多くの友達と楽し</p>	<p>リーダーである新6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は90.4%と、数値指標を達成した。 縦割り班による遊び（わくわくタイム）や児童集会、縄跳び大会など、年間を通して計画的に実施してきた。今年度は特に、集団での活動を通して互いに認め合う場を意図的に</p>

<p>く活動している」 ⇒児童の肯定回答80%以上</p>		<p>設定した。活動の初めに輪になって手をつないだり、シールを活用したりすることで、班の結束が強まっていった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に一人一人目当てを言う場を設けることで、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。</p>
-----------------------------------	--	--

〔総合的な評価〕

- 教育全体の状況については、おおむね数値指標を達成することができた。特に「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」については、全ての評価対象者から高評価が得られた。今後も、いじめの早期発見・早期解決、あいさつ運動の強化等を通して、今後も活気があり、明るくいいきとした雰囲気である努める。(A1 より)
- なお、「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」については、前年度からは向上したが、今後も継続的に努力することが必要であると考えられる。(A3 より)
- 学校運営の状況については、高い評価を得られた項目や、学校の研究課題に関する「授業で、みんなと一緒にじっくり考えながら勉強している」などのように肯定回答率を近年連続して向上させているものもある。ただし、評価項目によっては、評価対象者によって評価に違いが見られるため、情報の発信や取組の更なる充実に努める必要があるものと考えられる。(A2 A4 A5 より)
- 学校の公開や情動的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりがおこなわれた。(A6 より)
- 「校内は、学習にふさわしい環境となっているか。」では、肯定回答率は今年度大きく増加した。今後も整理整頓された学習環境づくりに努める。(A8 より)
- 教育活動の状況のうち、生活面の「あいさつ」は、本年度の数値指標を達成したものの、昨年度と比べると数値目標がわずかながらしたまわった。今後とも継続してあいさつの指導に取り組むことが必要であると考えられる。(A9 より)
- 教育活動の状況のうち、学習面の授業に関することについては、「授業への積極的な取組」では、本年度僅かに数値指標を達成することができなかったが昨年度より向上した。今後は、「基本的な学習のしつけ」に関して意識づけを行うなど、学習態度のさらなる改善指導に努める。(A12 より) 今後、期間を定めて集中的に指導したり、児童への個別の支援が必要な場合は、各担当者間で連携して指導に当たったりするなど、工夫しながら継続的に取り組むことが必要である。(A12 より)
- 本校の特色・課題については、特に学校の研究課題に関わりのある「縦割り班活動」で、数値指標を達成した。「読書」については、肯定回答率は近年連続して向上しているが、今後もさらに取組の充実に努めることが必要である。また、「家庭や地域と連携したあいさつ運動」や「体力向上」については、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」を活用した指導の工夫改善を図るなどして、広く家庭等に理解を深めていただくよう努力する必要があると考えられる。(B4 B5 より)

6 学校関係者評価

- 子どもたちは、素直である。あいさつもできている。学校ばかりでなく地域に出てもあいさつができようになるとさらによい。子どもが元気なあいさつを身に付けるためには、保護者がまず元気な挨拶をすることが望まれる。また、地域でもあいさつをすることが大切である。あいさつは、学校と地域をつなげていくと考える。
- 授業参観をし、先生方と児童のコミュニケーションがうまくとれていると感じた。楽しい雰囲気の中授業が進められていた。
- 今回の学校アンケートを昨年度と比較すると、全体的に評価が上昇している。子どもたちは少しずつ成長してきており、今後の成長が楽しみである。今後も学校と家庭・地域がより連携して指導にあたっていたきたい。
- 学校評価については、どこを基準として評価すればよいか迷うことが、評価する側ももっと学校に足を運び、普段の子どもたちの様子に触れるとともに、地域においても気軽にあいさつを交わせる関係になることが必要だと感じる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- あいさつや言葉遣いなど，基本的な生活習慣や望ましい生活態度の向上を図るため，児童主体のあいさつ運動，場に応じた適切な言葉遣いの指導の充実に努めていく。
- 「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」の活用について，家庭への周知を徹底し，理解を深めていただくとともに，強化週間を設定し集中的に指導するなど，学校と家庭が連携して効果的な指導の工夫に取り組む。
- 学校便り・学年便りや授業参観・オープンスクール等を通して，教育活動全般について家庭・地域への情報公開をさらに積極的に実施していく。